

新年度を迎え筑波大学マレーシアサテライトオフィスから

4月はじめに永田恭介学長より所信表明があったようにトランスボーダー大学構想を踏まえ、新年度サテライトオフィスのスタッフ一同は①教育・研究環境の立ち上げ ②英知の共有化 ③ASEAN 諸国教育・研究基盤形成 ④ ASEAN 諸国科学・文化の発展戦略を目指す。本学すなわちマレーシア・日本国際工科院 (Malaysia-Japan International Institute of Technology: MJIT) は、マレーシア工科大学 (UTM) に所属し、クアラルンプールキャンパス内にある。設立の経緯は 2001 年、マハティール元首相と小泉元総理が提案したものであり、ルックイースト (東方政策) の集大成として日本式の工学教育導入を目的とし 2011 年 9 月に開校した。分野は当初、電子システム工学科、機械精密工学科、技術経営工学科が先陣を切り、その後環境・グリーン工学科が設立され学生募集を開始した。MJIT の日本人教員は、現在では 25 名ほどになっており、基本的に日本大学連盟 (JUC) 25 校から選抜され派遣されている。筑波大学は JUC 25 校中 25 番目に加盟した大学であり、現在、杉浦則夫、岩本浩二の 2 名が派遣されている。また 2013 年 12 月に設置された筑波大学サテライトオフィスは現在、杉浦則夫教授、岩本浩二准教授の他、現地雇用の Tuan Azma binti Tuan Ismail さんを加え、3 名で運営されている。オフィスの利用は現在、筑波大学および MJIT/UTM の教職員・関係者はもとよりマレーシア国内の他大学さらに他の ASEAN 諸国の大学関係者も可能となった。昨年度は、筑波大学と MJIT/UTM のみに注目しても、学生共同指導 (長期、短期) や各種学生交流事業、研究者間プロジェクト交流事業、筑波大学学長訪問、国際シンポジウム開催、水環境プロジェクト実施、国際誌共同成果発表など多くの行事が実施され、筑波大学への学生受け入れは 62 名、教員受け入れ 21 名、派遣者数は、学生 22 名、教員派遣 31 名と他の JUC 加盟大学に比べ群を抜いて活発な活動ができた。

本年度の方針

- ① ジョイントスーパービジョン (共同指導) の他分野との指導拡大
- ② 学位プログラム (ジョイントディグリー) の実施計画推進
- ③ 筑波大学入学現地試験制度準備
- ④ 大型プロジェクトの共同推進

- ・ マレーシア政府ジョホールバル・パゴ地区学園都市4大学設置（2016年度学生募集）構想支援、特に環境分野での支援
- ・ 有機性廃棄物高度変換プロジェクト事業実施・支援
- ・ パゴ地区藻類・エネルギー施設設置支援
- ・ 防災センター設置支援
- ・ UTM/MJIIT 防災分野学部新設支援
- ・ 日本式環境浄化システム形成と技術開発（ノンハラール食品モニター開発、環境浄化装置の開発）プロジェクト支援

⑤ 日本中等・高等学校グローバル化教育支援

- ・ 教職員交流の拡大
- ・ 生命環境系以外の分野交流の促進・支援

今後の日本の少子高齢化時代を見据え科学文化の象徴である創造技術立国日本をたかめていくためには ASEAN 諸国の若人とともに汗を流し、成果を共有することそして強い誘導が大切であり、それによって次世代の日本の道が開かれると思う。マレーシアはまさに ASEAN 諸国の起点であり、今、教育・研究はもとより社会文化形成のためのシナリオ作りで多くを日本に求めている。

昨年度は、永田学長はじめ、ベントン副学長、国際室大根田教授、久武教授、国際室職員の方々、そして生命環境系長白岩教授をはじめ多くの教職員の方々に大変お世話になりました。本年度は倍旧のご指導・ご支援をお願いする次第です。



新年度のスタートにあたり筑波大学マレーシアサテライトオフィス前にて（左から Azma 女子、杉浦教授（オフィス長、文責）、Rubiah 院長、岩本准教授（オフィス副所長）